

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	那珂市家庭教育支援チーム (呼称:那珂市訪問型家庭教育支援チーム) URL: https://www.city.naka.lg.jp/edu-board/shougai/page010450.html
②活動拠点	那珂市教育委員会生涯学習課
③活動範囲	那珂市内全域
④組織体制	<p>___ 8人</p> <p>○元教員6人 (現主任児童委員1人、民生委員・児童委員1人を含む)</p> <p>○元幼稚園・保育所職員2人 (現民生委員・児童委員1人を含む)</p>
⑤活動開始年度	令和6年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 那珂市教育委員会生涯学習課 (TEL)029-298-1111 (E-mail)shougai-g@city.naka.lg.jp

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <input checked="" type="checkbox"/>自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/>保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/>その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) </div> <input type="checkbox"/> その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	<input type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以上 <p style="text-align: right;">の子供を持つ保護者に対する活動を実施</p>

<p>③活動内容</p>	<p>【具体的な活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ねらい <p>共働きやひとり親世帯の増加、核家族化といった家族形態の変容により、子育てに余裕のない家庭が増えつつある。また、地域社会のつながりが希薄化し、保護者が子育ての悩みを抱えたまま、相談することができず地域で孤立してしまうこともある。家庭教育の困難さが増している状況下で、全ての保護者が安心して家庭教育を行うことができる支援体制として地域人材を活用し、個々に応じた必要な支援を届ける。</p> ○ 支援内容 <p>支援員が家庭訪問し、子育てに関する不安や悩みの相談を受けたり、必要に応じて家庭教育に役立つ情報提供や専門機関への橋渡しをしたりする。</p> ○ 対象 <p>市内の小学1年生の子をもつ全家庭 《 ベルト型全戸訪問 》 ※小1ギャップへの対応として【令和6年度1年生 405人】</p> ○ 訪問方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市訪問型家庭教育支援員の設置(8人) (2) 小学校区を組み合わせ、4グループを編成(1グループ 100軒前後) (3) 支援員二人一組で4ペアを編成して1グループを担当し、支援員2人の都合が合う日に家庭訪問を実施(訪問期間はR6年6月～10月) (4) 不在宅へは訪問カードをポストインし、保護者は後日、相談申込が可能 ○ 活動の工夫 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保護者が事業に対する安心感がもてるよう、小学校長へ事業説明の協力依頼をしたり、新聞社へ取材依頼したりして、事業周知の充実を図った。 (2) 訪問開始前に事務局が全小学校を訪問し、入学からこれまでの児童の様子や保護者とのやり取りで気になる家庭について1年生担当の先生から情報提供いただき、該当家庭へ複数回訪問する等、軽重をつけた訪問活動を行っている。 (3) 支援が必要なケースにおいて、その家庭の就学前の情報を支援の手がかりにするため、那珂市保幼小中連携協議会と連携し、幼児教育施設と情報共有を行っている。
<p>④活動の成果 (活動実績がある場合)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者に寄り添う支援を心掛け、傾聴に努めることで訪問直後は表情が硬かった保護者も、終了時には笑顔になっていることが多く、仕事と家事と子育てに追われている保護者にとって、何気ないおしゃべりが気分転換の機会となり、本事業の意義を実感することができた。 ○事業周知の充実により、訪問に対する好意的な声を多数聞くことができた。また、対面率は47.4%と、事業準備期間に想定した数値を大きく上回ることができた。しかし、小学校から情報提供があった気になる家庭の対面率は33.3%と低い数値になっていることを改善していくことが今後の課題となっている。 ○現在、市内の小学校では4月に家庭訪問を実施しておらず、年度初めに家庭環境や保護者の思い、考えを確認する機会がない状況。支援員が家庭訪問をすることで得られた情報を随時、小学校へ共有することができたことで、小学校からも事業に対する感謝の声をいただくことができた。

	<p>○小学校や学校教育課指導室、福祉部局も全く情報をつかんでいなかった家庭について、ケースが悪化してしまう前に情報をつかむことができた。</p> <p>○早期対応が必要なケースがあった場合、訪問当日に支援員から事務局へ連絡が入り、すぐに関係各課と情報共有や支援についての協議することで、支援家庭に対する早期の対応ができています。</p> <p>(対応ケース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における友人トラブルの改善に向けた相談があり、小学校並びに指導室と随時、情報共有したことで早期対応することができた。 ・夫婦間での生活費や不妊治療に関する悩みの相談を受け、市こども課と協議して複数回家庭訪問して母親の相談に応じ、気持ちに寄り添いながら、市で行っている事業を紹介する等の支援を継続した。 ・母親の実家が県外で、近くに相談できる友人もおらず、地域社会で孤立してしまっている状況なので、『是非、母親の話し相手になってほしい』と父親から相談があり、複数回訪問して相談対応を継続していく。 ・母親の片頭痛がひどく、家事や食事の用意ができない日があるといった内容の相談があり、対応した支援員が4年生の姉がヤングケアラーになってしまう可能性があるという危機感をもったことを受けて、早急に市こども課と対応を協議した。今後は、市福祉部局が継続支援していくために、支援員が再訪問して福祉部局との橋渡しをしていく。
<p>⑤活動財源 (複数チェック可能)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()</p>